

私は中学生のときから、会社の事務や病院の受付をする医療事務など、事務職に就きたいと考えていました。本校に入学したのも事務に関わる仕事をしたいと考えていたのがきっかけでした。高校卒業後は専門学校か就職かという2択ですと悩んでいましたが、どちらになっても大丈夫なように、3年生の1学期を一つの区切りに考え、検定は日頃の学習の成果の表れだと思ったので、たくさんの資格取得を目標にしながら取り組んできました。

就職試験に向けては、学校では履歴書を書いたり、面接練習をお願いしたり、学校でしかできないことをメインに行いました。学校での面接練習は、同じ職種を希望する人がグループを組んで行うのですが、1つの質問に対してどのような受け答えをするか、自分だけでなく他の人とのやりとりも見ることができ、自分自身の改善につなげることができるので、とても勉強になりました。自信になったり、本当に嬉しく感謝する言葉も先生方や友人からたくさんいただきました。家では、一般常識の問題を解いたり、面接や筆記の時事問題でも役立つように、毎日ほんの少しですが新聞に目を通すようにしていました。

試験当日は、思ったより緊張せず、落ち着いて受けることができたと思います。面接は個人面接で、それまで面接練習にしっかり取り組んできたこともあり、「あれだけ練習したのだから、どんな質問でも答えられる！」と前向きな気持ちで臨みました。

私は9月中旬の入社試験でしたが、それまでの進路決定が本当に遅く、校内選考の書類を提出するのにもぎりぎりでした。実を言うと、提出期限の前日まで、最初に少し話しました医療事務になるための専門学校か就職かで両親ともめていたからです。進路を決めるにあたり、社会人になるという責任や本当に自分が社会人としてやっていけるのかなど不安が大きく、自分でも両親と話し合うことを避けていました。何事にも「早め早めに行動！」と担任の先生によく言われていましたが、本当にそうだとそのとき改めて思いました。進路を決めるのは避けて通れません。3年生の夏休み、友人と「今日は親と話さなん…」と何度も言っていました。大切なことはすぐに相談すべきだと思いました。まだ就職か進学かで迷っている人は、すぐに進路室に行き、求人票を見せてもらうことが一番だと思います。私も、私の友人も3年生の夏休みになって、「2年のときから求人票、見とけばよかったね…」と何度も話しました。進路室に行くと、どんな先生でも親身になって相談に乗ってくださいます。私も昨年、この場で、「進路室の先生は相談に乗ってくれる。」と先輩に聞きましたが、そのうち何とかなるだろうと思い、行かなかったことをとても後悔しています。私自身は運良く、第一志望のところの内定をいただけましたが、あとになって後悔しないように、できることは今すぐにでも取り組むことをお勧めします。